

# 第24回

# みちのくYOSAKOI祭り

## 開催要綱

2021年（令和3年）

10月10日（日） 10:00～18:00

[主催] 一般社団法人みちのくYOSAKOI協議会・みちのくYOSAKOIまつり実行委員会

[共催] 河北新報社・仙台市内郵便局（予定）

[後援] 宮城県／仙台市／青森県／秋田県／岩手県／山形県／福島県／高知県／高知市／仙台商工会議所  
／宮城県教育委員会／仙台市交通局／仙台経済同友会／公益財団法人仙台市市民文化事業団／公益財団法人宮城県文化振興財団／公益財団法人仙台観光国際協会／公益社団法人宮城県物産振興協会／社会福祉法人仙台市社会福祉協議会／一般社団法人東北ニュービジネス協議会／NHK仙台放送局／仙台放送／TBC東北放送／ミヤギテレビ／KHB東日本放送／仙台CATV株式会社／朝日新聞仙台総局／毎日新聞仙台支局／読売新聞東北総局／産経新聞社東北総局／日本経済新聞社仙台支局／日刊スポーツ新聞社東北総局／株式会社仙台リビング新聞社／せんだいタウン情報 S-style／エフエム仙台／fm いずみ797／エフエムたいはく株式会社／宮城県タクシー協会仙台地区総支部／公益社団法人宮城県トラック協会／公益社団法人宮城県バス協会／一般社団法人ソーラン祭り組織委員会（予定）

[協力] とうほく YOSAKOI 協議会／一般財団法人ドリーム夜さらいグローバル振興財団／日本赤十字社／泉中央接骨院  
(順不同)

一般社団法人みちのくYOSAKOI協議会  
みちのくYOSAKOIまつり実行委員会

〒980-0802 仙台市青葉区二日町2番1号 キムラオフィスビル6階  
Tel 022-268-2656 Fax 022-268-2674

<http://www.michinoku-yosakoi.net> e-mail: [d\\_info@michinoku-yosakoi.net](mailto:d_info@michinoku-yosakoi.net)

# 「第24回みちのくYOSAKOIまつり」開催要項

## ◆開催日時◆

2021年(令和3年)10月10日(日)10:00~18:00

## ◆会場(予定)◆

市民広場  
YouTube みち YOSA チャンネル(オンライン配信)

## ◆実施内容(予定)◆

- ①宮城県内チームによる「YOSAKOI 踊り」の演舞披露
- ②オンライン配信(YouTube)での演舞披露
- ③参加チーム市町村のPR
- ④写真コンテストの実施
- ⑤ビジョンカーでの演舞VTR、CM放映

## ◆観客動員数見込◆

約632人(第21回実績約45万人)※初日降雨あり

## ◆参加者数見込◆

演舞参加チーム 県内チーム約40チーム  
(VTR参加チーム 全国から約40チーム)

## ◆参加資格◆

- ①「みちのくYOSAKOIまつり」の理念に賛同できること。
- ②「みちのくYOSAKOIまつり」の基本ルール  
〈手に鳴子を持って踊る。曲に東北(地元)の民謡の一節を盛り込む〉  
を遵守できること。
- ③ 社会通念上の「礼儀」を遵守できること。

# 「第24回みちのくYOSAKOIまつり」大会組織

## ◆大会名誉会長◆(予定)

村井 嘉浩 <宮城県知事>  
郡 和子 <仙台市長>  
鎌田 宏 <仙台商工会議所会頭>  
新本 恭雄 <一般社団法人東北ニュービジネス協議会会長>

## ◆顧問◆(予定)

坂本 眞一郎 <宮城大学名誉顧問>

## ◆みちのく YOSAKOI まつり 応援団◆

<団長> 加藤 義雄  
<副団長> 加藤 勇吉 門馬 佳三 田畑 英伍 菊地 文博  
石黒 康二 角石 正志 菅原 規正 鎌水 一弘  
秋山 裕一 伊勢 幸浩 木村 裕

## ◆みちのく YOSAKOI まつり 青年応援団◆

みちのく YOSAKOI まつり 実行委員 OB.OG

### 一般社団法人みちのく YOSAKOI 協議会

代表理事 : 山本 攻  
副代表理事 : 加藤 勇吉 門馬 佳三  
理事(監事) : 田畑 英伍  
理事 : 菅原 規正 齊藤 衣代

### みちのく YOSAKOI まつり 実行委員会

実行委員長 : 山本 攻  
副実行委員長 : 門馬 佳三 菅原 規正

監修 : 東北医科薬科大学 大学院薬学研究科  
臨床感染症学教室 藤村 茂 教授

企画・運営 : 一般社団法人みちのく YOSAKOI 協議会  
みちのく YOSAKOI まつり 実行委員会

東北を愛する社会人・学生など約 40 名で構成されています。

## 「今年のスローガン」

“紡ぐ” 未来へつなぐ 舞と想い

### 「東北で“YOSAKOI”を行う意義」について

当まつりの魅力は、他のよさこいと同じルールを基にしているため、各地の参加チームがそれぞれの独自性と表現力でその民謡と地域性を披露するだけでなく、同じ理念を共有する遠くの仲間とも一体感を共有できる事です。

東北の魅力を多くの方々に知っていただき、今年10年目になる東日本大震災からの復興を祈り、元気を届けていく事で「東北はひとつ」を合言葉に東北全体の活性化に貢献する事です。

踊る人、応援する人でよさこいを愛する人の輪は、着実に全国の市町村まで広がっています。

### 「みちのくYOSAKOIまつり」の理念

#### 【理念①】 民謡で東北おこし

東北は、民謡の宝庫。民謡によって培われてきた東北人のアイデンティティを現代にふさわしい形でよみがえらせます。「古くて新しい東北共通の祭り」の創造です。

#### 【理念②】 市民の創造力と独自性で東北おこし

市民の参加なくして「まちおこし」はありえません。老若男女が一体となった市民の情熱・創造力・表現力こそ、東北の資源ではないでしょうか。

音楽・ファッション・ダンスなどの現代性・流行性と、祭り・民謡などの伝統性・地域性との融合。これが、新しい郷土愛・誇りとなるのです。

#### 【理念③】 百万都市・仙台でふるさとPR

東北をはじめ全国各地からの出身者の方々に育てられ、支えられて「百万都市」に成長した仙台。仙台に暮らす私たちは、いったい「東北各地の活性化」のために何ができるのでしょうか。そのひとつの答えが、「東北各市町村の魅力・気概・観光資源・物産などをPRする場・機会を創造し、提供する」ことでした。祭りは、まちの元気を多くの方々に知っていただく絶好のメディアといえます。

東北人の気概、東北の魅力を全国に発信し、東北全体の活性化に貢献します。

# 「みちのくYOSAKOIまつり」の効果

## [効果①] 地域ネットワーク効果 <人的地域交流の促進>

東北で初めての「東北共通の東北おこし祭り」。東北の一体感が醸成され、東北各地間の人的交流が促進されます。いっしょに踊り、いっしょに汗をかくことで、草の根的な交流が生まれます。

## [効果②] 経済的効果 <観光&物産情報の発信>

「心の時代」の観光資源は、「人の熱意・情熱」です。人の魅力が、その人のふるさとの魅力となっていくのです。「みちのくYOSAKOIまつり」は、東北各地の「人の魅力」・「ふるさとの魅力」・「観光資源の魅力」・「物産の魅力」などを発信する場。踊りとともに「ふるさと自慢」・「観光&物産自慢」を大いにさせていただきます。

## [効果③] 教育的効果 <若者たちの表現力の創造>

曲も踊りも衣装も自由。若者たちの表現欲を満たす、実にクリエイティブな祭りです。いっしょに創造し、いっしょに制作し、いっしょに汗して踊る。こうした一体感・達成感が満足感を生み、郷土愛・誇り・思いやりといった心を育むのです。次代を担う若者たちの表現欲を満たしてあげることも、「まちおこし」のひとつではないでしょうか。幼稚園や小・中学校など学校単位で参加しているチームもたくさんあります。

## [効果④] 社会教育的効果 <地域コミュニティの再構築>

地域活動にあまり関心を示さない若者たち。しかし、楽曲や衣装・振付などクリエイティブな要素がふんだんな「YOSAKOI 踊り」なら、表現欲旺盛な若者たちを取り込むことができます。老若男女が集まって、それぞれが創り手・踊り手となって精を出す。自然と地域との一体感が生まれてきます。

## [効果⑤] 文化振興的効果 <クリエイターの発掘・育成>

YOSAKOI は、楽曲・衣装・振付・舞踏そして旗振と五身一体の祭典です。

自信と誇り、そして郷土愛を持ったクリエイターたちが「まちおこし」に積極的にかかわり、真剣に取り組む新しい地域文化を作り上げてきました。

これからも参加者を始め YOSAKOI を応援して下さる方と共に楽しみながら、街の活性化そして、新たな地域文化を生み出す表現の場としてあり続けたいと思います。

「みちのくYOSAKOIまつり」の実績<第1回~第23回>

	第1回 <98年>	第2回 <99年>	第3回 <00年>	第4回 <01年>	第5回 <02年>	第6回 <03年>	第7回 <04年>	第8回 <05年>	第9回 <06年>	第10回 <07年>
参加チーム数	34	61	81	114	145	180	220	240	250	260
参加踊り手数	1,200人	3,100人	4,000人	5,100人	5,800人	7,000人	7,500人	8,000人	8,200人	8,500人
東北内参加市町村	12	19	28	40	50	59	70	70	70	70
東北外参加市町村	6	9	7	19	15	23	40	20	20	20
参加市町村合計	18	28	35	59	65	82	110	90	90	90
会場数	4	8	7	10	11	13	11	12	12	11
観客動員数	10万人	16万人	33万人	45万人	60万人	70万人	50万人	65万人	45万人	70万人

注：第7回の観客動員数は10月10日(日)の1日のみ開催（10月9日は台風のため中止）

注：第9回の観客動員数は10月7日（土）台風のため繰り下げ開催

	第11回 <08年>	第12回 <09年>	第13回 <10年>	第14回 <11年>	第15回 <12年>	第16回 <13年>	第17回 <14年>	第18回 <15年>	第19回 <16年>	第20回 <17年>
参加チーム数	250	200	190	181	190	180	175	180	160	150
参加踊り手数	10,000人	10,000人	10,000人	8,000人	8,000人	8,000人	8,000人	8,000人	8,000人	8,000人
東北内参加市町村	63	62	53	53	57	55	51	55	54	51
東北外参加市町村	25	27	15	32	38	27	31	27	26	24
参加市町村合計	88	89	68	85	95	82	82	82	80	75
会場数	9	9	8	9	10	9	7	8	10	8
観客動員数	75万人	60万人	46.6万人	78万人	80万人	98.2万人	98万人	96.7万人	57万人	39万人

	第21回 <18年>	第22回 <19年>	第23回 <20年>	第24回 <21年>	第25回 <22年>	第26回 <23年>	第27回 <24年>	第28回 <25年>	第29回 <26年>	第30回 <27年>
参加チーム数	146	中止	中止							
参加踊り手数	8,000人									
東北内参加市町村	43									
東北外参加市町村	21									
参加市町村合計	68									
会場数	7									
観客動員数	45万人									

注：第22回は台風のため中止

注：第23回は新型コロナのため中止

【参考】第22回（2019年）参加チーム市町村

宮城県仙台市・石巻市・東松島市・多賀城市・塩竈市・大崎市・栗原市・登米市・白石市・岩沼市・角田市・七ヶ浜町・松島町・加美町・大和町・美里町・涌谷町・柴田町・蔵王町・川崎町・亘理町・丸森町 福島県福島市・会津若松市・いわき市・郡山市・相馬市・南相馬市・鏡石町・下郷町  
秋田県秋田市・横手市・にかほ市 岩手県一関市・奥州市・宮古市 山形県鶴岡市・東根市・川西町 青森県弘前市・つがる市 高知県四万十市  
北海道札幌市・千歳市・江別市・帯広市 愛知県名古屋市中区・東浦町 富山県滑川市・立山町 長野県松本市 新潟県小千谷市 東京都墨田区・文京区  
神奈川県厚木市 千葉県船橋市・鎌ヶ谷市・野田市 埼玉県所沢市・朝霞市 茨城県守谷市・常陸大宮市・大子町 長野県上田市 栃木県那須町・鹿沼市